Creative Enzymes®

細菌由来のヌクレオシドホスホリラーゼ、組換え型

Cat. No. NATE-0607

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	酵素学において、プリンヌクレオシドホスホリラーゼ（EC 2.4.2.1）は、次の化学反□を触媒する酵素です：プリンヌクレオシド + リン酸 ↔ プリン + α-D-リボース 1-リン酸。したがって、この酵素の二つの基質はプリンヌクレオシドとリン酸であり、生成物はプリンとα-D-リボース 1-リン酸です。この酵素はグリコシルトランスフェラーゼのファミリーに属し、特にペントシルトランスフェラーゼに分類されます。この酵素は、プリン代謝、ピリミジン代謝、ニコチン酸およびニコチンアミド代謝の3つの代謝□路に関与しています。
用途	ヌクレオシドホスホリラーゼは、タンパク質の脱リン酸化を測定するために連結酵素系で使用されます。細菌性ヌクレオシドホスホリラーゼは、マイコバクテリウム・スメグマティスにおける2つのアデノシンホスホリラーゼ活性を特定し、特徴づける研究に使用されました。細菌性ヌクレオシドホスホリラーゼは、3,5-ジクロロベンゾイル置換体の2-デオキシ-D-リボース-1-リン酸誘導体によるピリミジンおよびプリンヌクレオシドホスホリラーゼの阻害を調□する研究にも使用されました。
別名	プリンヌクレオシダーゼ; イノシンホスホリラーゼ; PNP; PNPase; PUNPI; PUNPII; イノシン-グアノシンホスホリラーゼ; ヌクレオチドホスファターゼ; プリンデオキシヌクレオシダーゼ; プリンデオキシリボヌクレオシダーゼ; プリンヌクレオシダーゼ; プリンリボヌクレオシダーゼ; 9030-21-1; EC 2.4.2.1

製品情報

種	細菌性
由来	大腸菌
形態	凍結乾燥粉末
EC番号	EC 2.4.2.1
CAS登□番号	9030-21-1
活性	> 10 ユニット/mg タンパク質

保管・発送情報

保存方法	−20°C